別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区扇橋2 - 24 - 1
施設名	まかな保育園

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

日常の保育と自然物

〈テーマの設定理由〉

毎日行く散歩先が自然がたくさんある公園（親水公園、猿江恩賜公園等）が多いところが近隣にある。その際に、子ども達も木や葉っぱの自然物に興味を示すことが多く、子ども達の興味関心・探求心が育まれる良いきっかけになると感じた為、上記のテーマに設定した。

２　活動スケジュール

①11月20日　公園にある木や葉っぱを調べよう
②12月17日　公園にある木や葉っぱを持ち帰ろう
③1月21日　公園にある木や葉っぱを使って遊ぼう
④2月19日　公園にある木や葉っぱを使って遊ぼう

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・樹木図鑑　・袋　・木　・ままごと　トミカ　・ガムテープ　・絵の具　・スモック　・画用紙

４　探究活動の実践

〈活動の内容〉

①近隣の公園に向かい、樹木や葉っぱの違いを図鑑と照らし合わせて調べた。
②公園で木や葉っぱ、どんぐり等、自然物を持ち帰った
③公園で拾った木を観察し、比べる。
④木をみて何をして遊びたいか考える。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

①近隣の公園には「カスミザクラ」「イチョウ」「カラマツ」等の木がたくさんあった。　「木の中はどうなっているのだろう？」と疑問に思う子もおり、折ってみた。「中は白いね！」と木の幹と樹皮の違いに気付いた子もいた。葉っぱの形も様々…ギザギザ、ツルツル等、違いがたくさんあった。

②公園で木や葉っぱ、ドングリを拾った。その中でもツルのような長い木があり「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声に合わせて大きなかぶごっこや綱引きが始まった。
大きな木の枝から小さな木の枝まで、様々な木があったので、どんぐりや葉っぱと共に園に持ち帰った。

③公園で拾った木を観察してみると「これ長いね」「こっちは短い」等違いを見つけ、他にも“細い”“太い”“まっすぐ”等、一つ一つの木を比べて違いを発見していた。
保育者が「この木は何に見える？」と一本ずつ問いかけてみると少し考え「…箸みたいだね」と二本合わせて手に持つ姿が見られた。その後、おままごと遊びに木を取り入れ、箸やトングのように使って遊ぶ姿が見られた。その他「木と木を合わせたらトンネルみたい」「✕になった」等、数本組み合わせてイメージする子もいた。トンネルに見立てながら周りに木を置いて道路も作って遊んでいた。

④木の枝を見て「これでお絵描きしたい」との声が上がった。好きな色を選び、絵の具を付けてみると、たくさんの線が描け子ども達も喜んでいた。筆のように使うことができ、初めは単色であったが徐々に赤、白、黄色、青などを混ぜて混色を楽しんだ。

５　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

①図鑑を見ながら、木の幹や葉っぱの違いに自ら気付くことが出来ていた。じっくり観察することで別の発見があるのではないかと思い、次回は公園にある自然物を持ち帰り、よく観察をし、子ども達からどのような声が聞けるか様子を見守ることにした。

②大きな株ごっこに発展するとは思わなった。子どもの“引っ張る”というイメージから想され大きなかぶごっこに発展した。次回も子どもの創造力を大切にし、持って帰ってきた木の枝や、どんぐり、葉っぱを使って見立て遊びやごっこ遊びに取り入れていきたい。

③公園で拾った木の見え方が、個々によって違うことに気付いた。各々の捉え方は多様性で子どもの感性を伸ばすよいきっかけとなったように感じる。また日常の保育に自然物を取り入れる事で繋がりのある保育が生まれ、より主体的に遊び込む姿が見られたように感じる。次回も同じような活動を行い、子ども達の声を拾うと共に一緒に考え、他の遊びにも発展していきたい。

④以前と同様「この木でどんな遊びをしようか」と問いかけると前回とは違う遊びとなった。木の枝が筆やペンに見えたようで、この木の枝を使ってお絵描きを楽しむ展開となった。子どものイメージが柔軟であり“やってみたい”“今度はこの遊びをしたい”と一人ひとりの遊びの展開が異なり、木の枝だけでたくさんの遊びに繋がった。
引き続き、子ども達の一人ひとりの声を大切に探求心や表現力が日常の保育と自然物を通して子ども達の新たな一面を大切に過ごしていきたい。